

全社連会報

No. 6

第18回全国社会教育委員研究大会要項

◇趣旨

いまわが国は大きな転換期に直面し国民としての生活の見直しや人間性の尊重を基盤とした社会づくりが強く求められている。

こうした時代に教育の果す役割はますます重要性を帯び、わけても社会教育に寄せられる期待と要請はとみに増大してきている。

このときにあたり、全国の社会教育委員が相互にその活動や研究成果を交流しあうとともに、社会教育の今日的課題を探り、これに対する今後の方策について研究協議する。

◇研究会

地域における社会教育の課題を検討し、社会教育委員の積極的な活動のあり方を考えよう。

◇会期

昭和51年11月16日(火)17日(水)18日(木)

◇会場

主会場 福岡市民会館(16・18日)
分科会場 福岡市民会館小ホール・日立ファミリーホール・天神ビル大ホール・中ホール・特別ホール・県消防会館大ホール・県食糧ビルA会議室(17日)

◇主催

全国社会教育委員連絡協議会
全日本社会教育連合会
福岡県社会教育委員連絡協議会
福岡県教育委員会
北九州市教育委員会
福岡市教育委員会

◇後援

文部省・福岡県・北九州市・福岡市・NHK

◇日程

第1日 11月16日(火) 12時より受付
13時～13時50分 開会行事

第3日	第2日	第1日	9
全体会議閉会 (シンポジウム)行事	分科会	運営委	10
			11
分科会	昼食	開会行事	12
			13
			14
			15
分科会	記念講演	アトラクション	16
			17
			17
		分科会	
		打合	

主催者あいさつ
祝辞 文部大臣
福岡県知事

福岡市長

歓迎のことは 福岡市長

13時50分～14時10分 経過報告

14時10分～14時20分 日程説明等

14時20分～15時20分

記念講演 森戸辰男氏

15時20分～16時 アトラクション

(終了後全社連評議員会)

第2日 11月17日(水) 9時30分開会

9時30分～12時 分科会研究協議

12時～13時 昼食・休憩

13時～17時 分科会別研究協議

第3日 11月18日(木) 9時30分より

9時30分～11時30分

シンポジウム

「地域における社会教育の課題を検討し社会教育委員の積極的な活動のあり方を考える」

登壇者 分科会助言者・マスコミ関係者・学識経験者等4名程度を予定

11時30分～12時 閉会行事

(次期開催県代表あいさつ)

◇分科会

第1分科会 住民の政治意識を高めるために

- 住民の政治意識の実態と問題点
- 社会教育における政治学習のあり方
- 明るい選挙推進運動等における社会教育の役割

第2分科会 ころ豊かな子どもを育てるために

- 青少年の生活実態と問題点
- 家庭教育の現状と課題
- 学校教育・家庭教育と社会教育の連携のあり方
- 少年自然の家等青少年教育施設の整備と活用

第3分科会 新しいコミュニティを形成するために

- コミュニティ計画ならびに活動の実態と問題点
- コミュニティづくりに果たす施設の役割
- コミュニティ活動と社会教育
- 郷土の芸能文化の保護と伝承

第4分科会 住民の豊かな暮らしを実現するために

- 社会教育における消費者教育の現状と課題
- 省資源問題と生活の見直し
- 公害問題等生活環境をめぐる諸問題
- 福祉行政と社会教育

第5分科会 住民の健康と体力づくりをすすめるために

- 健康・体力づくりに関する住民の意識および欲求の現状
- 住民の健康・体力づくり活動の実態
- 社会体育振興のための条件整備の方向

第6分科会 人権尊重の社会を実現するために

- 部落差別の現実
- 社会同和教育

の現状と問題点●これからの社会同和教育の振興方策

第7分科会 社会教育の諸条件を整えるために

- 専門指導者をめぐる問題と拡充方策
- 民間指導者の養成確保をめぐる諸問題
- 研修事業のこれから

大会ハイライト

記念講演に森戸辰男先生をお迎えしました。先生は文化功労者として表彰を受け、教育界における最高の権威者で、高齢ながら今なお矍鑠として日本教育会会長をはじめ、多くの教育団体を主宰しております。福岡大会は、先生の高邁なご意見が拝聴できる、まことにえがたい機会です。

大会参加者配布資料

大会では、参加者に社会教育に関する資料を差上げておりますが、本年度は「社会教育法の解説」を用意しております。執筆を国立劇場理事長福原匡彦先生にお願いしております。先生は元文部省社会教育局長として社会教育の振興につくされた方で派遣社会教育主事制度も、その時の発想であり、社会教育行政に対する造詣の深い先生であります。今回は特に社会教育委員のために喜んでお引受けくださいました。ご期待願います。なおこれは各ブロック大会の参加者にも配布されます。

資料の一般頒布

「社会教育法の解説」は多くの人の要望に応じて、次により頒布されます。B6判、定価三〇〇円、〒二二〇円

申込は 全社連事務局へ

地区研究大会も華かに!!

昭和51年度の全国研究大会も別項のように決定し、これに呼応するように各ブロック研究大会も開催され、また開催の準備がすすめられていく。

◇関東甲信越静大会

期日 51年6月17日(木)～18日(金)
会場 千葉県九十九里センター
研究主題 生涯教育の観点から社会教育をどう進めたらよいか
参加者 三三〇名
講演 「青少年教育のすすめ方について」 千葉大名誉教授飯田 朝氏

第1分科会 社会教育指導体制の充実をどのように進めるか
第2分科会 社会教育施設設備の充実をどのように進めるか
第3分科会 青少年に対する社会教育の充実をどのように進めるか
第4分科会 婦人教育の充実をどのように進めるか
第5分科会 同和教育の充実をどのように進めるか

◇近畿地区大会

期日 51年7月7日(木)～8日(木)
会場 大津市滋賀会館他
研究主題 地域住民の要求に対応する社会教育委員のあり方
参加者 六〇〇名
講演 「外国人からみた日本人」 滋賀県教育委員 大久保昭教氏

第1分科会 勤労婦人に対する社会教育を推進するにはどうすればよいか
第2分科会 在学青少年に対する社会教育を推進するにはどうすればよいか
第3分科会 生活に生きがいを見いだすためのボランティア活動をどうすすめるか
第4分科会 地域における同和教育の自主的な学習活動をどうすすめるか
第5分科会 社会教育諸条件の整備をすすめるため社会教育委員の活動はどうあるべきか

◇指定都市社教委連絡協議会

期日 51年7月8日(木)～9日(金)
会場 川崎市中原市民館
協議題 日常生活圏における社会教育事業の推進について(札幌市) 市民生活と社会教育行政(横浜市) 市民体育の振興について(名古屋市) 社会教育施策の長期展望について(京都市) 一般成人に対する職業教育の機会の提供と定時制高校との学社連携のあり方(大阪市) 社教主事の専門職化について・都道府県下公民館連盟の特別分担金

について(神戸市)各種社会教育施設のネットワークについて(北九州市)学校体育館の開放状況について(福岡市)学校教育と社会教育の連携について(川崎市)

◇北海道大会

期日 51年9月9日(木)～10日(金)
会場 小樽市市民会館

記念講演 国際政局と日本の課題

講師 慶応大学教授 神谷不二氏

シンポジウム これからの社会教育のあるべき姿

分科会 ①実践的な社会教育計画の企画立案をどうすすめるか②学習計画の企画立案をどうすすめるか

③社会教育指導体制の充実をどうすすめるか④社会教育施設設備の充実をどうすすめるか⑤コミュニティ形成と自治意識の啓発

◇東北地区大会

期日 51年9月24日(金)～25日(土)

会場 青森県野辺地町 馬門温泉

研究テーマ 地域社会の形成者としての自覚を高めるための社会教育活動はどうあればよいか
講演「地域文化と人間形成」

弘前大学教授 小野正文氏

分科会 第1部会青少年教育(在学

青少年と団体活動・青少年と伝統文化の伝承)第2部会婦人教育(婦人の社会参加と団体活動・社会に開かれた家庭教育の振興)第3部会成人教育(P.T.Aの成人教育活

動・高齢者と伝統文化)

◇東海北陸地区研究大会

期日 51年10月8日(金)～9日(土)

会場 富山県高岡市 商工ビル

研究主題 生涯教育の視点から社会教育の課題と社会教育委員の役割を考える
講演「日本の話芸」

早稲田大学教授 興津 要氏

分科会 第1分科会 ころ豊かな子どもを育てるために●第2分科会 新しいコミュニティを形成する

ために●第3分科会 住民の豊かなくらしを実現するために●第4分科会 住民の健康と体力づくりをすすめるために

パネルディスカッション「これからの社会教育と社会教育委員の役割について」

◇四国地区研究大会

期日 51年9月20日(月)～21日(火)

会場 愛媛県文教会館

分科会 ①公民館活動の振興をはかるにはどうすればよいか②在学青少年に対する社会教育を推進するにはどうすればよいか③婦人家庭教育の振興をはかるにはどうすればよいか④地域における同和教育を推進するにはどうすればよいか

講演「社会教育の方向」講師未定

中国地区

中国ブロックでは、5月17日、松江市ホテル六道湖において、中国地区五

県の社教委員代表と社教課長が出席して情報を交換するとともに、中国地区研究大会開催について協議した結果、本年は9月20～21日愛媛県松山市において開催される四国ブロック大会に参加することとし、52年鳥取県主催のときから中国地区大会開催を決定した。

全社連理事会評議員会

本年度第1回の評議員会は、5月11日、東京文化会館大会議室において、理事、評議員等四十五名出席して開催された。昭和50年度事業報告、決算報告を承認し、昭和51年度事業計画案、収支予算案を可決した後、第18回全国大会には多数の参加を奨励することを申合せ、また本会の基本金募集について話し合いが行われた。(別項記事参照)また、第19回全国大会の開催地区は四国の順番であるが決定をみるに至らなかった。その他表彰規程設定についての意見もあり理事会に一任された。なお、50年度は、50年5月15日の第1回評議員会では、51年度より会費を値上げすること、基本金を設定することなどが決定され、10月8日の理事会において募金の方法等が決められ、11月5日の第2回評議員会において承認された。

全社連基本金募集について

全社連の基盤を鞏固にして、全国四万委員のコミュニケーションを深め、社会教育団体としての活発な活動を展開し、社会教育の振興をはからねばならないというところが50年度の理事会および評議員会で協議され、そのためには基本金を設定して財政基盤を固めなければならぬと基本金募集の件を決定した。このため全国の社会教育委員に対して、在任中一回一千元の寄附をお願いすることとした。このため趣意書を全国県市町村社会教育委員会議の議長さん宛に発送すべく、都道府県社会教育課長及び各社教連会長宛、募金についての協力要請の文書を流した。既に二、三の県から協力的体制の申入れがあった。

社会教育委員の現況

社会教育法第15条によって設置された社会教育委員の数は、別表のとおりであるが、46年度の調査と比較して、設置率で二・二%、総員で一〇七名の増となっている。しかし、なお市(区)で五・一%、町村で八・五%の未設置自治体のあることは遺憾にたえない。

別 表

設置率	平均	現員	区分	都道府県	市(区)	町	村	組合	合計	四六年
一〇〇%	一八・〇	八四八			八七七七	二七、八二	一〇・九	四六八	三七、九四	三七、八〇七
	九四・九	一三・二			九一・五	三〇・〇	九一・四	一一・四	一一・三	八九・二

第17回全国大会の成果

第17回全国社会教育委員研究大会は
東京都教育委員会、東京都社教委連
等と共催で次のように開催された。

会期 昭和50年11月5～7日

会場 東京文化会館及び周辺施設

第1日 開会行事、記念講演、社会
教育施設自由見学

◇記念講演 「日本教育の将来」

国立教育研究所長 平塚益徳

第2日 分科会別研究協議

◇第1分科会 社会教育委員の役割

協議題①社会教育団体への補助金

②今後の社会教育施設の拡充

助言者 立教大学教授室俊司・東
京都社会教育主事室長藤田博

司会者 埼玉県社教委大関豊明

昭島市社教委丸山康雄

問題提起 小田原市社教委川辺
昂・須崎市社教委森光須賀雄

(補助金は団体の独立姿勢の涵
養をはかる。団体育成のために
も補助金の洗いなおしが必要で
ある)

◇第2分科会 学校と社会教育

協議題①青少年の学校外活動の施
設や指導者の充実②学校開放の
諸問題と将来の方向

助言者 群馬県社教課長日野敬三
全社連事務局長長谷川和夫

司会者 野田市社教委吉田清・

国立市社教委安井辰雄

問題提起 今市市社教委石川公
志・熊本県社教委佐藤慶子

(子どもにとって遊びこそ生命
である。最近の子どもに明朗さ
がないのは、子どもの生活の中
から時間と空間を奪ったからで
ある。学校優先のあり方を強く
反省すべきである)

◇第3分科会 職員体制の確立と指
導者の充実

協議題①社会教育主事や公民館、
図書館等社会教育施設職員の制
度確立②有志指導者、団体指導
者の役割、行政との関係

助言者 東京学芸大学教授小林文
人・栃木県社教課長寺内秀男

司会者 加須市社教委若旅進一
町田市社教委浪江虔

問題提起 高崎市社教委古関幸
平・天童市社教委石山憲司

(派遣社教主事について賛否両
論があった。また公民館職員の
任用、格付も明確にすべきであ
り、ボランティアの発掘につい
て社教委の役割は重要である)

◇第4分科会 労働婦人、家庭婦
人と社会教育

協議題①学習の内容や方法の改善

②家庭教育の充実③相互交流

助言者 新潟県社教課長中浜新四
郎・東洋大学助教神田道子

司会者 神奈川県社教委徳永ア
サ・小平市社教委加藤春雄

問題提起 長岡市社教委内山弘
夫・名古屋市社教委横地さだ
え

(学習意欲のない婦人に対しど
う呼びかけるか。家庭婦人と勞
働婦人を切り離して考えず共通
した問題として考えることが必
要である)

◇第5分科会 社会同和教育の推進

協議題①学校との連携をどのよう
にす、めるか②地域住民全体の
課題とするための努力や実践③
社会同和教育の内容と方法

助言者 千葉大学教授宮崎元夫・
埼玉県社教課長青鹿一郎

司会者 深谷市社教委高橋基就
小平市社教委滝島昌訓

問題提起 岡山県建部町教委主幹
日野宏哉・松本市社教委教係長
平林竹夫

(同和教育と同和対策を混同し
てはならない。社会教育を同和
教育の視点からとらえる差別の
現実をみつめ正しい認識をもた
ねばならぬ)

◇第6分科会 地域社会の芸術文化
の振興

協議題①住民の文化創造にこたえ
る学習内容と方法②芸術文化関

秋も深まる十一月、われわれは東京、
上野の森にいつどい、第十七回全国
社会教育委員研究大会を開催した。
社会教育委員として志を同じくす
われわれは、「住民主体の社会教育と
はなにか」との原点にたちもどり、日
頃の見識と実践とを、あますところな
く、研究がわすることができた。その実
りある研究協議は、必ずや明日の社会
教育委員活動の源泉となることを確信
してやまない。

しかしながら住民の社会教育に対す
る期待と要望の高まるなかで、広範多
岐にわたる教育的諸要求に正しく対処
していくには、われわれが、社会教育
委員本来の役割をはたすこともさるこ
とながら、社会教育行政がその組織、
方法、内容について検討を加え、さら
に予算、施設、職員等各般におよぶ条
件整備をいそぐ必要を痛感した。

いまや地方財政は、未曾有の危機を
むかえているが、本大会は、国・都道
府県・市町村が、住民の切なる願いに
こたえるために、社会教育法の改正、
同和教育の推進等緊急かつ重要な課題
の施策化と十分な予算措置をすみやか
に講ずるよう、大会の総意により強く
要請するものである。

右ここに宣言する。

昭和五十一年十一月七日

第十七回全国社会教育委員研究大会

東京大会宣言決議

全社連役員紹介

全社連ニュース

北海道社連結成20周年

北海道社教委員連絡協議会は、本年結成20周年を迎えたことを記念して、永年（20年以上）社会教育委員として社教教育推進に尽した左記19名の方々に、9月9日開催された道社連研究大会の席上表彰した。当日は全社連関口会長に代り長谷川事務局長が出席表彰状を伝達した。

小玉寛二（富良野市）矢野恒由（豊浦町）石井徳次（厚岸町）鹿野昇（同）続橋少一（釧路市）伊藤末秋（平取町）名達孫一（江差町）五十嵐英太郎（雨竜町）森川梅子（赤平市）集隼吉男（陸別町）高橋清治（岩内町）福島多市（同）佐々木善民（同）柏美之（泊村）古館行夫（余市町）佐野寿男（俱知安町）橋本正二（京極町）三ツ谷弘郷（小樽市）田辺千代（同）

「社教情報」へ投稿を

本会機関誌「社教情報」は創刊以来ユニークなスタイルで各方面の賞賛をいただいております。

第4号は秋の大会までに発行の予定です。次のような原稿をどしどしお寄せくださるようお願いいたします。

- 感想文
 - 和歌
 - 俳句
 - 川柳
 - 詩
 - 隨筆
 - 郷土史
 - 民話
 - 活動記録等
- 定価二〇〇円・近く都道府県を通じ、内容をお知らせします。

評議員 副会長

北海道 佐野 寿男
札幌市 宮内 克男
青森 高橋 卯平
岩手 佐々木 徹郎

宮城 長谷山 包子
秋田 阿部 金蔵
山形 今井 豊蔵
福島 宮内 矯夫

茨城 石川 忠臣
栃木 大関 軍之丞
群馬 大関 豊明
埼玉 西森 忠次郎

千葉 関口 隆克
東京 駒田 錦一
" " 細 川 昌
" " 藤 田 親 昌

神奈川 小林 力三
新潟 小倉 喜久
山梨 小坂 卓郎
長野 柴田 登

静岡 加藤 衛
横浜市 藤田 親昌
川崎市 奥田 栄助
富山 森 茂喜

石川 橋本 津
福井 小川 正二
岐阜 野田 底司
愛知 岩下 かね

三重 岩下 かね

評議員

名古屋 神谷 歌二
滋賀 萩田 晋治
京都 森口 兼二
大阪 平沢 俊雄

兵庫 田村 亨
奈良 河合 一良
和歌山 笹野 勇
京都市 上田 正昭

大 阪 田 中 正 吾
神 戸 市 家 治 川 豊
鳥 取 石 谷 貞 彦
島 根 鳥 居 大 二

岡 山 大 熊 立 治
広 島 吉 川 清 士
山 口 長 嶋 宏 武
徳 島 黒 田 嘉 一 郎

香 川 大 西 林 次
愛 媛 武 智 正 人
高 知 藤 岡 正 秋
福 岡 鐘 水 速 太

佐 賀 高 添 門 司
長 崎 鳥 巢 通 明
熊 本 三 角 了
大 分 麻 植 敏 秀

宮 崎 野 瀬 良 胤
鹿 児 島 平 原 哲 夫
冲 縄 当 山 正 男
福 岡 市 大 神 健 太 郎

北 九 州 市 木 村 昭 彦

係施設と職員の充実

助言者 明治大学教授北田耕也・茨城県文化課長板垣久敬

司会者 川崎市社教委員藤田親昌 葦崎市社教委員山本融

問題提起 石川県社教委員佐藤令久・船橋市社教委員秋山日出夫

（文化活動に対する行政の姿勢は条件整備に關しての役割を果たすべきだ。退廃文化の氾濫については質の高い文化をもつて制するほかない）

◇第7分科会 地域の社会体育の振興をはかる

協議題①地域の社会体育施設の確保②社会体育指導者の充実

助言者 文部省主任体育官早川芳太郎・多摩スポーツ会館長佐藤政孝

司会者 千葉県大原町社教委員田中喜雄・三鷹市社教委員本間実

問題提起 山梨県榑形町社教課長津久井豊雄・明石市社教委員中沢栄一

（体育施設の新設の困難なこと生涯スポーツ、コミュニティスポーツとして継続させること、スポーツ指導員の資格法定の問題、指導者確保の問題）

第3日 全体会議 閉会行事

次回開催代表あいさつ

福岡県社連会長 鐘水速太

「むなししい」というけれど

神谷 歌二

(名古屋社会教育委員)



いつか、県内の社教委の方たちと話し合ったことだが「むなししい」という思いで共通するものがあつた。長年、委員を務めておられるほど、その思いは強かつたようだ。これは一体どういうわけか。

お互に社教委は、法規に基づいて、社会教育の振興推進のため、当該教育委員会の諮問に応えたり、進んで意見も開陳する。しかし、一年をふり返つてみたとき、社会教育施設の整備充実一つ取り上げてみても、どれほど前進したか。予算を始めいろいろと客観的な制約があつて、遅々たること甚しい。そんなことから、社会教育の将来を真剣に考えれば考えるほど、その実りの少ないことに、ついつい「むなしさ」といった愚痴が出るのだろう。

ラに、具体的に成果の乏しい焦慮が「むなしさ」につながるのだろう。

それにしても、学校教育百年の歴史は——いまや急激な時代の変遷に対応できず崩れつつあると口ではいいながら——依然重く、相変わらずその延長線上に社会教育を位置づけている。そのため、社会教育の立遅れをなかなかとりもどすことができずにいる。いい換えれば、それは発想の転換といいながら、相変わらず社会教育を学校教育の補完的役割としてしかみていない、その情性から脱却し得ないためではないだろうか。要するに社会教育そのものの体系作りが、いまなお未完成で、理念的にも、もちろん一本脊骨を欠いているところに問題があるのだろう。その意味では試行錯誤の連続の上にある社会教育の現状である。

確かにいまは社教委にとつて「むなしさ」一杯かも知れぬ。しかし、多様化する住民サイドのニーズを広くに受けとめ、それに応えて行政サイドをアシユする役割は社教委をおいではなからう。よし「むなしさ」とも、社会教育の「明日に期待」をかけて、社教委がねばり強く努力しない限り、一味違う今後の社会教育の振興も推進もあり得ないのであるなからうか。

社教委は、あくまで社会教育のための裏方である。そんな思いをしてい

る私である。

当面する二つの課題

我々の任務は、当面二つの課題をもつ。一つは、施設の拡充であり、二つは、指導者の養成、これである。



主に行政との関連に於て不断の推進努力を行うことであるが、施設については、

公民館のように住民待望の中核施設は早く完全普及を実現せねばならぬこと、言を俟たない。どちらかと言へば、府県の施設の方が内容に於て不備な感さえる。

指導者の問題はより一層深刻である。殊に今日、地方社会でも社会教育に対する要請が強まり、自然発生的にも色々な組織が生れつつあり、行政と住民との間に立つ我々の仕事は繁忙の度を加えてきた。その際、指導者の不足にはいつも悩まされる。就労の不安が強い地方社会に於ては、第一次産業が主導的なせいも、必要な中間層の分化が不十分であり、いわゆる専門化が急速には進まない。少数の指導者は常に報いられること少なく、責任の重圧にあえぐのみ。社教主事の専門化常置制さえ未だ実現しない現状をみて、この

石谷 貞彦

(鳥取県社会教育委員)

面の画期的進展は、まことに日暮れて道遠しの感がある。現状は中途半端、今後非力な我々と雖も何とか制度の確立に向つて努力せねばならぬと思う。元来「社会教育」という言葉自体が難解な字義をもつのだが、「社会教育」は一体誰がするものなのか、誰の責任なのかといへば、一にも二にも、それは政府がやれ——といいたたい人もあろう。しかし実は、国民の側で一人一人の生活意識から醸成され来た社会的要請が前提であり、支えであると思われ。学校教育とは別に、学問的体系も行政的体系も、将来必ずや整備されるであろう。人は欲求し、また移動する。社会教育は、我々はじめ目下勉強中というところ。

それにしても、施設といい指導者といい、仕事の中味はもちろん種々の問題をやらんでいる。そして多くの場合、我々は財政的不如意にいつも突き当たる。住民意識の多様化にも不拘、社会資本はまだ貧弱そのものだ。情報という魔風のみは過剰流動するだけに、地方に居て感じさせられることは、社会教育の分野においても、地域的アンバランス

すがひどいことだ。大都市が良いなどとは決して言うつもりはないが、せまい日本の中にも、陽の当らぬ小さな陰

私の立場からみた社会教育

三角 了
(熊本県社会教育委員)

現代の世相を斬るなどといえれば大げさであるが、現代社会を論理人間(活



字人間)と触覚人間(テレビ人間)の二種類と考えるという二

重社会論から生れた思考法に二重思考というのがある。従来の論理や常識はもはや四十歳以上の活字人間には通用するが三十歳前後より特に二十歳以下のテレビっ子の人種には全く新しい考え方方で(極端に言えば「逆」の考え方)接する必要があると考えられるに至った。

その歴史はそう遠くからではない。戦前、戦中を通って戦後へ……彼等の脱落した物心両面が生み出した所産としか思えない。不自由な世相の中から、高度成長へ驀進して緊張はほぐれ、自由の中に解放され、物慾に盲目で他を顧みる暇もなく、己れの利を追う傀儡の衆となつてしまったのだ。そうして神武景気、元禄景気とか変な成長の連続で、浮薄な世相となり、社会は異状な発達を遂げた。大企業は益々発展し大衆はあげてこのブームに乗せられた。

が数多く存在していることを思わされるのである。

この波に持てると持たざるを問わず生活は華美に流れ、大衆は己れが成長したような錯覚に陥り、特に耕地に永住していた農家は土地を売払い多額の金を手に入れて所謂地主主義者となり、働かずして億単位の金が転がりこんで長者番付にも名をつらねるようにもなった。

そして郷土愛、国家意識、さては親子の情愛、人々の情義は薄らぎ、家を忘れ親を疎んじ、耐乏、勤勉の意志からも遠ざかり二重思考を考えねばならなくなつていった。如何にしたら昔の姿に戻すことが出来るか。

こうした世相の中で私の町作りは人間作り所謂教育の樹立にはじまつている。物質文化が人間の主義を喪失した現代。上層の意志は下部に浸透せず、自己保身にのみつとめて敢えて動かず人間関係はますます疎外する事態を何とかとするか。人間信頼の薄れていることを嘆かずにはおられない。

この時、特に人間教育こそ救世の大道で、教育こそ本然の姿にかえす鍵と

事業としては、座談会、講演会、読書会、対談会、体育会、各種講座等学習計画が実施されているが、住みよい町作りの根底に楽しい家庭作りからの進め方で真の人間関係は家庭からと考えている。平凡でも礼を交し、笑顔で接し正しい思考をお互にもたらずよう懸

真実味のある学習を

町政は地域住民の福祉の向上を願つて進められるべきものであるが、住民も先ず地域社会のために何をなすべき



かという姿勢でなければ、地方自治の振興も福祉社会の建設も出来ない。自己中心的な今日の物事の考え方、町のため

に何をなすべきかではなく、町から何を与えて貰うか。こうした欲求が行政に對する姿勢として社会通念化しつつある現状では町づくりなどということは程遠いと考えられる。

また、一人の力で地域社会の建設が出来るものではないことは誰もが理解しているところである。お互いの協力、協調があつて出来ることであるとすれば、社会教育における学習が生活技術の習得の場というよりむしろ学習を通じて住民のつながりを作る社会性を培う場として比重を大きくかけたい。

命に馴致する念願で行っている。町の政治の要諦はこの人間教育を本義として力強い歩みをつづけ平和で真に明るい社会にして、郷土愛、国家愛に燃えていく大衆と共に共存の実を揚げ度いと希求し念願としている者である。

鍾 水 速 太
(福岡県社会教育委員)

末端における行政は地域住民の日常生活のあらゆる問題を解決すべきものであるが、その取り上げる一つ一つの事業には常に教育的要素が含まれている。したがって行政の推進にあたっては教育的配慮なしにはやれないし、それなくしては効果はあがらない。即時的な解決は出来ても根本的な解決は出ない。社会教育関係者がもつと一般行政に對する理解を深め、一般行政担当者が社会教育的な感覚を持ち、末端行政の事務的処理から教育的処理への転換をはからなければコミュニティの形成はむづかしいと考えられる。

次に社会教育活動が形式化し迫力に欠けている。激動する現代社会の推移に對処する切実味、創造性にかけている。住民の要求に立つとよいながら趣味、レク中心の学習、年中行事のくりかえしとなり厳しき、深さが足りない。如何に生くべきか、地域社会をどうた

て直して行くか、そうした課題に真剣に取組んで行く広さよりも深さ、量よりも質への転換が望まれる。真実味の

私の立場からみた社会教育

田中正吾
(大阪市社会教育委員)

日本の社会教育が年とともに盛んになり、重要性を増してきたことは誠に同慶の至りである。この原因を考えてみると、人間の労働時間の短縮ということがあげられよう。電気洗濯機も電気掃除機も与えられていなかった頃の日本の主婦は社会教育の方からの呼びかけに対して忙しくて集れなかったが、現在はむしろ時間をもち余し気味になりつつあり、男性の方も週二日制の浸透とともに、その中の一日を自分の専門分野の勉強やレクリエーションや趣味の方の勉強に向け得るようになった。しかし、このような方向への伸びだけであって、果して社会教育としてよいものかどうか疑問が生じてくる。政治は嫌いだと公言してその方は避けて、他の自分の好きな自然科学方面について、専門分野や近接領域の勉強だけをしていて、その人はよい市民といえるのだろうか。ロッキード事件はこれについて一つの答を出しているのではなからうか。とすると社会教育は一人一人の市民を対象として、その市民像の抱括性と全体像を問題にすべきではなからう

ある学習でなければ社会教育に住民をつなぐことは出来ないであろう。

か。市民としての政治的教養という点で、すべての市民が最低これだけのものはという最低線を引き、その実現をめざす社会教育行政があってもよいのではないか。

人間としての全面的発達という点から見ると、専門知識、政治の次には芸術がくる。日本人は芸術にすぐれた国民だといわれる。確かにそうだが、それは主として部屋の中の芸術に限られていて、一步町に出ると都市は雑然としていて、街としての美しさはない。日本人がもつ「より美しい自分達の都市」を希求する心が強くならない限り、その美的センスは偏つたものだといわれても仕方がない。この美的センス養成のプロジェクトをどこかの都市の社会教育行政がとりあげてみてはどうだろうか。

ここにおいて、社会教育は都市計画と深くかかわっており、大都市の都市計画の立案者や行政担当者が都市の美観についての専門家の意見を入れ、尊重するようなムードが都庁や市庁の行政上の雰囲気の中に高まってきてほし

い。東京にも大阪にも橋はずいぶんたくさんあるが、橋の歩道の外側に一定間隔で立派な彫像が並んでいるような橋があってもよいのではないか。公民館の絵画教室や彫刻教室が定員をあふ

社会教育の領域

藤田親昌
(川崎市社会教育委員)

たいへん大雑把な発言ですが……。社会教育委員として、実際に市民の中に入ってみると、激動の転換期、市民の学習意欲が多様化していることに驚かされます。

社会教育委員は、市民と行政とのパイプ役とよく言われていますが、よほど委員は勉強しないことにはパイプの吸口役の勤めが果たせません。同時に行政側に対応する組織と意欲が整っていないと、パイプから吐き出された現実を受け止めることができなくなるわけです。

社会教育の領域は拡大され、今までの守備範囲をはるかに越えています。これをヨコの軸とします。タテの軸として男女別、青少年・成人・高齢者など年齢別を考えます。このヨコの軸は左右に移動し、同時に上下します。この両軸のクロスした場が社会教育の活動の拠点と考えていいでしょう。しかし、振り返ってみると、ヨコの振幅もシャープでないし、タテの場合、その上下

れて盛んになるのは大変結構だと思いが、それを個人の趣味の段階に終らせず、美しい町づくりにまでひろげたいものだ。

の範囲は生活に余裕のある市民たちに限られていたと言えるのではないでしょう。高齢者でも成人でも、青少年の場合でも、生活に困っていると、例えば金があっても生活のために時間がないとか、心身障害者(児)とかそうした市民は見捨てられる場合が多かったと思います。社会教育の学習活動に、そうした理由で参加できない市民をこのままにしておいてよいものか。わたしはここに大きな問題があると考えるのです。やはり社会福祉の思想が登場して来なければならぬでしょう。社会教育(教育という言葉に捉われなくてもいい)は人間が楽しく生活できる領域と場の在り方をもっと深く具体的に考えてみる必要があると、わたしは思います。

全社連会報 第6号

発行年月日 昭和51年9月5日

発行 全国社会教育委員連絡協議会

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-13

国立教育会館内

全日本社会教育連合会事務局気付

TEL(03)580-0608